

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 作業は 2 人以上でおこなうこと
レンジフードは 40kg の重さがあります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をする
手袋をするとき
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご利用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けイベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m²/h 時 50Pa 以下のものをご利用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいちいちしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けください。
なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
- レンジフード取付面の補強部は、取付用座ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用座ねじは 45mm の長さのものが同梱されており、壁下地（石膏ボード等）が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材料を使用してください。
- レンジフード下部には、沸沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。沸沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対にやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので、不燃処理された断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：勾配 1/100 ～ 1/50 程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。
レンジフードへの通電が遮断されますので、お手入れ時等の表示を正しくお知らせできなくなります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず現場設定をおこなってください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、レンジフードによる排気量と給気量が同じにはならず、建物の気密性によっては給気が必要となる場合があります。給気量が不足すると、不完全燃焼、吸い込み不良、異音、扉の開閉に支障が出るなどの不具合が発生する場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をする
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認

製品を支える強さが必要です。

製品質量	40.0kg
------	--------

- 板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
 - 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
 - 板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。
- コンクリート、タイル壁の場合
 - あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。
- 土壁の場合
 - 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

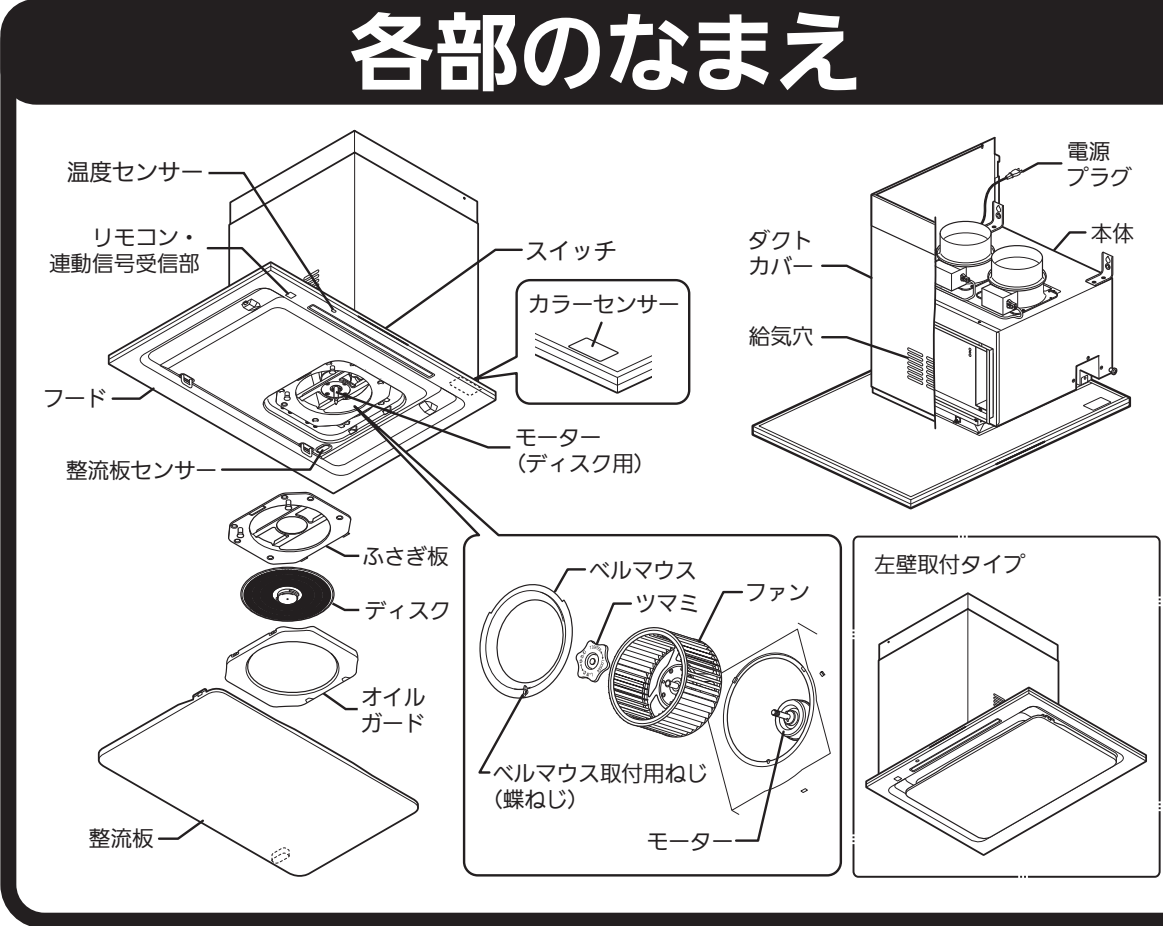
3 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品前面の下端まで 80cm 以上です。
※火災予防条例では、グリッド（ファイアース）の下部が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

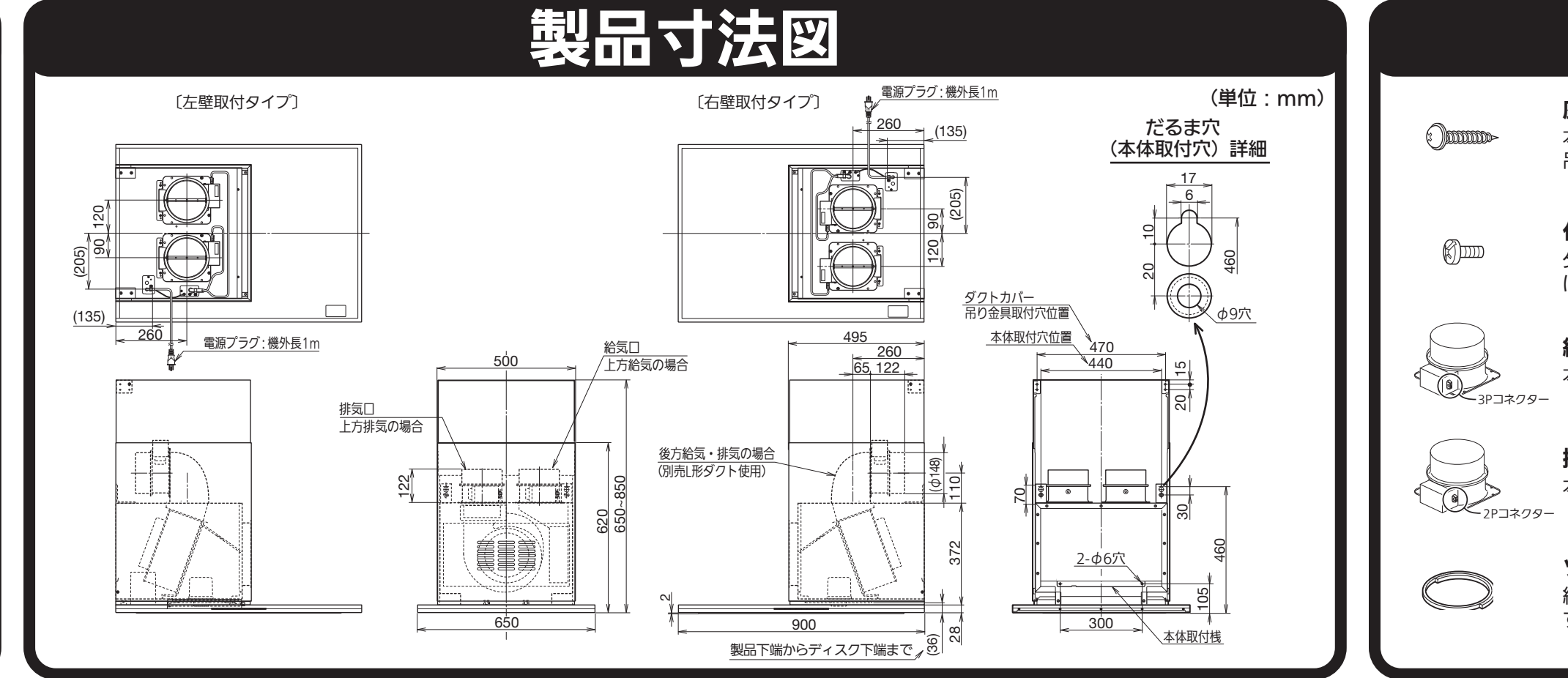
4 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極接地極付差込接続器 15A 125V をご使用ください。
お願い
・必ずアース工事（D 極接地工事）をしてください。レンジフードが誤動作することがあります。

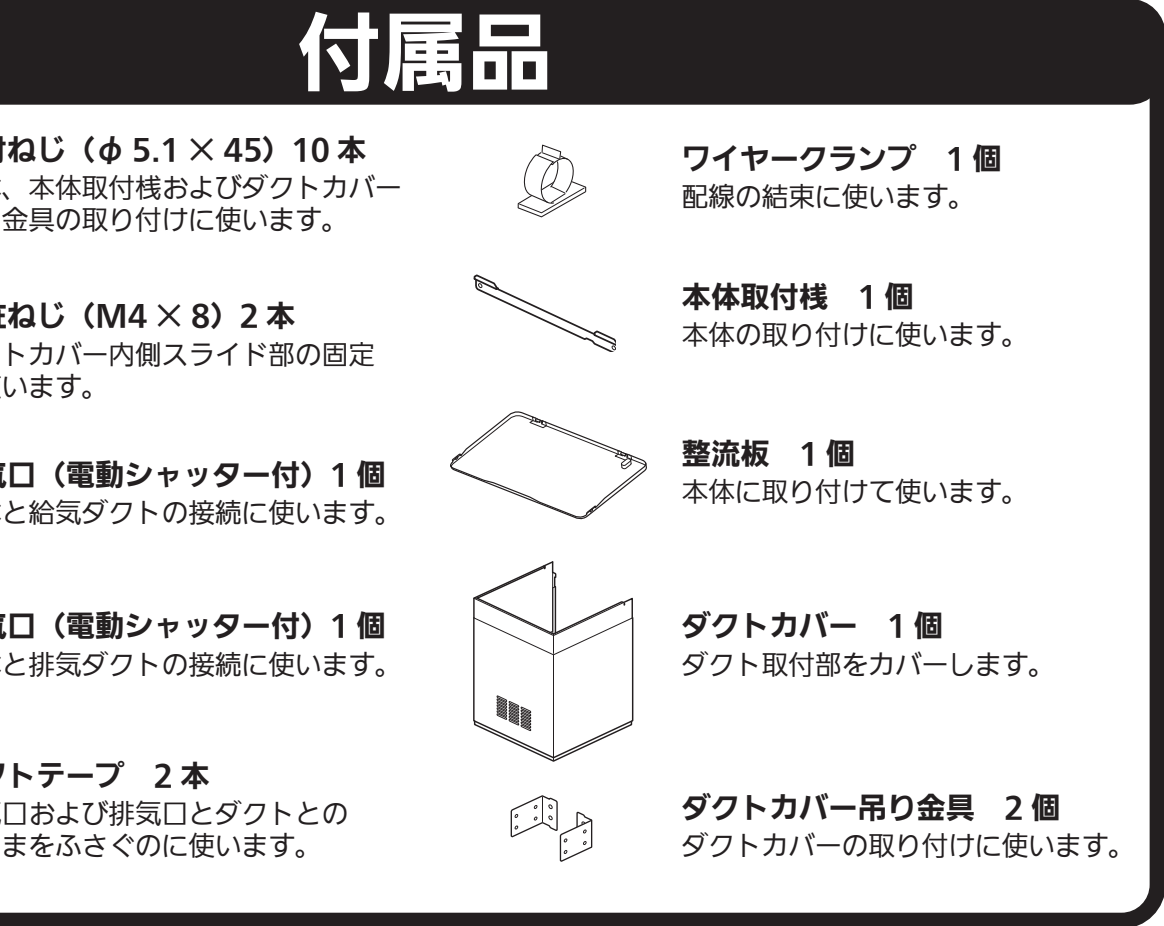
各部のなまえ



製品寸法図



付属品



取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をする
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

手袋をする

付属品を確認します。
梱包箱からダクトカバー、排気口、給気口、ねじ等の付属品を取り出し、上頂の付属品一覧により不足がないか確認してください。

お願い
・保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「7. ダクトカバーの取り付け」までは必ずしないでください。（図 1-1）
・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 給気・排気方向の決定

警告

- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

注意

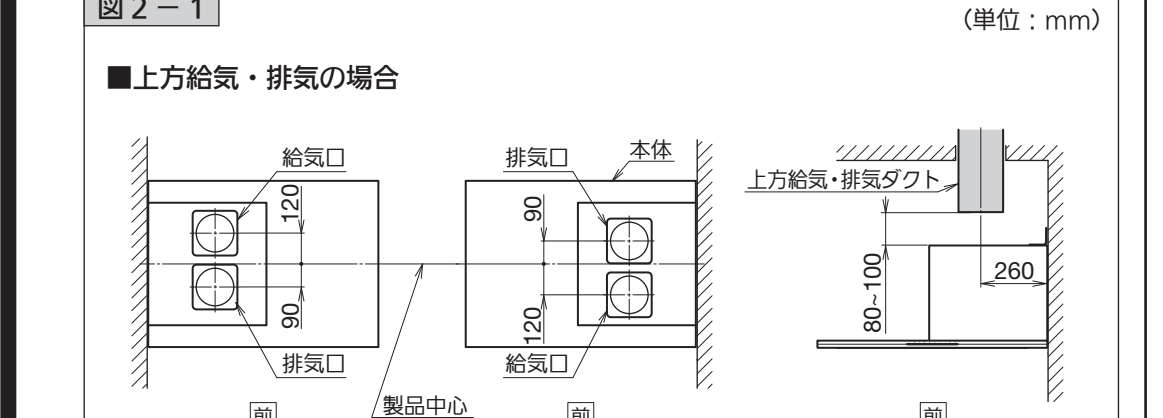
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。
また、コンセントの位置を確認してください。
（16. 電気配線）図 6-1 参照）

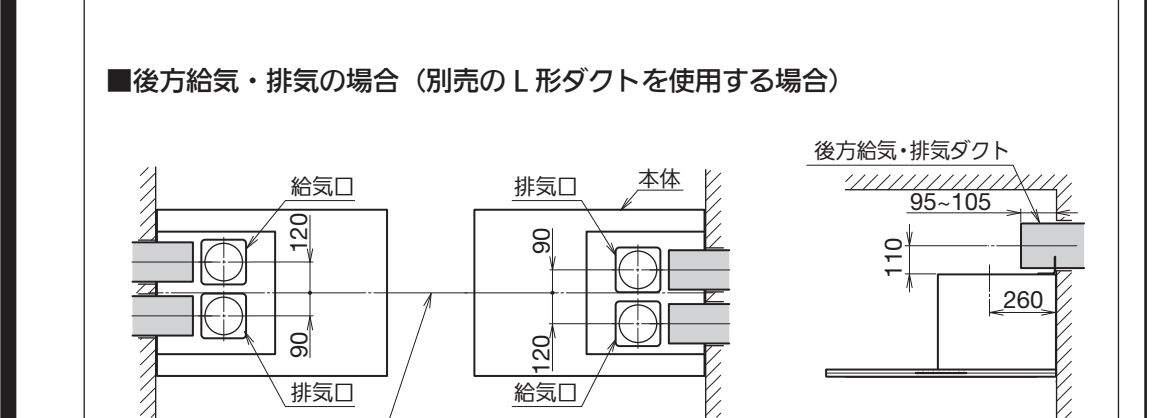
2 約 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。（コンクリート、タイル、土壁の場合）（図 2-1）

図 2-1

■ 上方給気・排気の場合



■ 後方給気・排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）



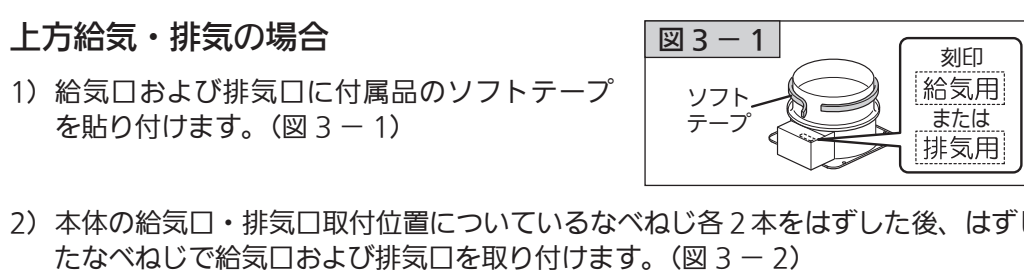
3. 給気・排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口および排気口を用意してください。

お願い
手動でシャッターを開閉すると故障の原因になりますのでおやめください。

■ 上方給気・排気の場合

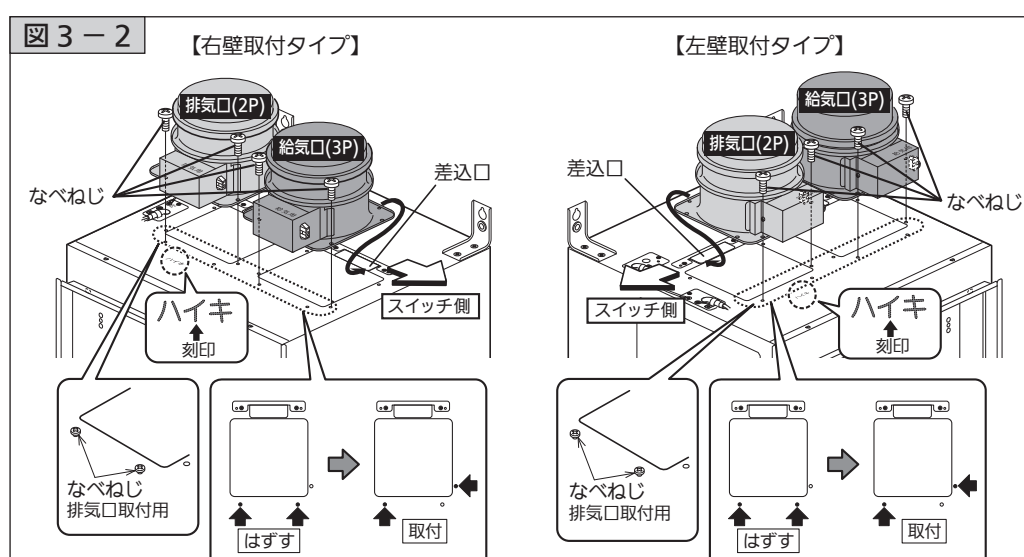
1) 給気口および排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。（図 3-1）



2) 本体の給気口・排気口取付位置についてのなべねじ各 2 本をはずした後、はずしたなべねじで給気口および排気口を取り付けます。（図 3-2）
※排気口取付位置近傍のねじは取りはずさないでください。

図 3-2

【右壁取付タイプ】



【左壁取付タイプ】

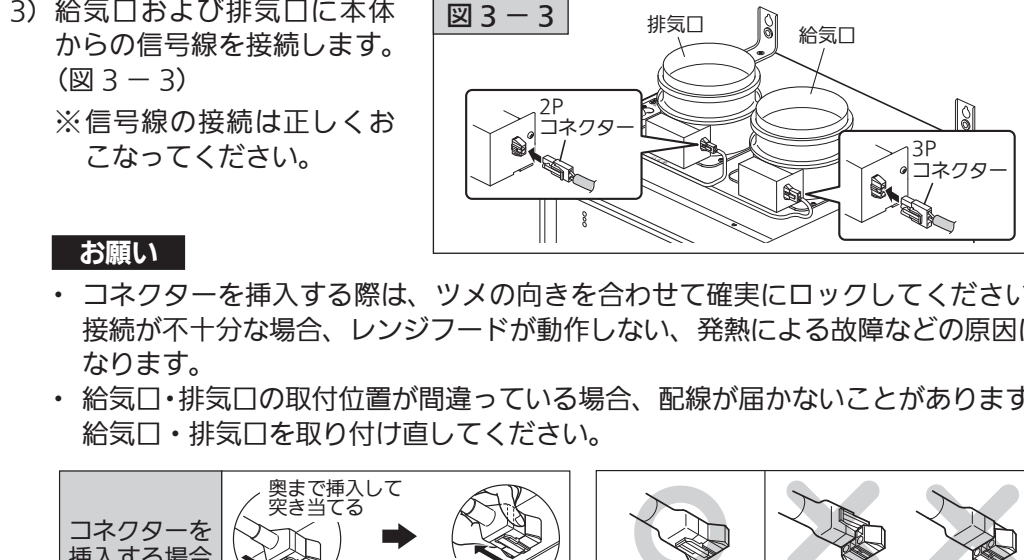


図 3-3

給気口および排気口に本体からの信号線を接続します。（図 3-3）
※信号線の接続は正しくおこなってください。

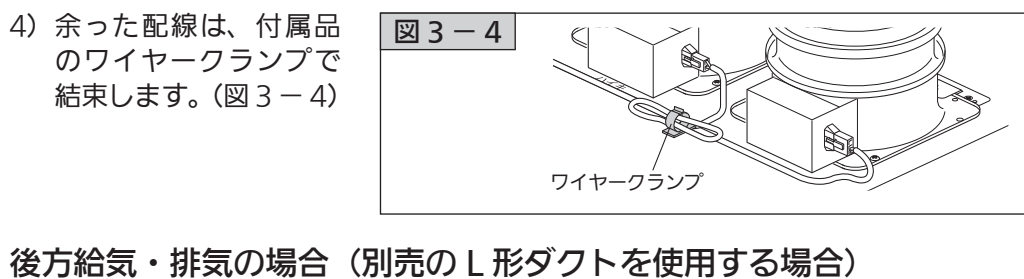
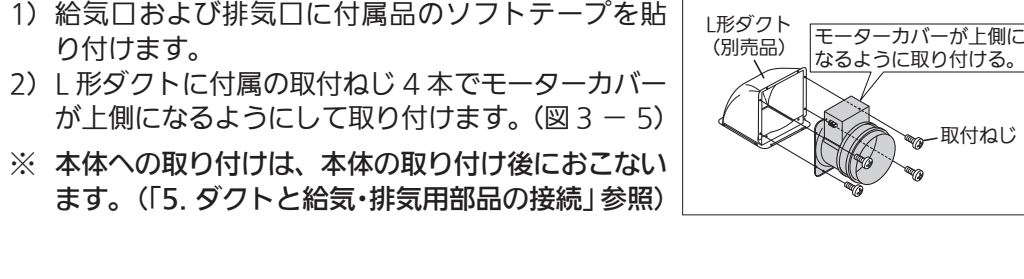


図 3-4

配線は、付属品のワイヤークラップで結束します。（図 3-4）



■ 後方給気・排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）

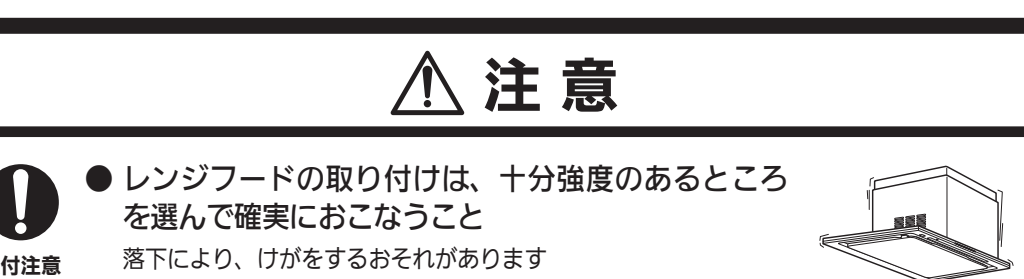
※ 後方排気の場合は別売の L 形ダクトが必要です。

1) 給気口および排気口に付属品のソフトテープを貼ります。

2) L 形ダクトに付属の取付ねじ 4 本でモーターカバーが上側になるようにして取り付けます。（図 3-5）
※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。（15. ダクトと給気・排気用部品の接続）参照）

図 3-5

L 形ダクト（別売品）



4. 本体の取り付け

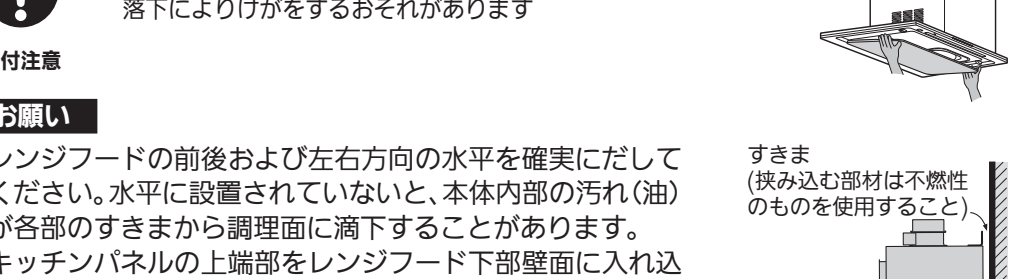
注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下により、けがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

お願い
・レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にだしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ（油）が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。
・キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

図 3-6

すきま（挟み込む部材は不燃性のものを使用すること）



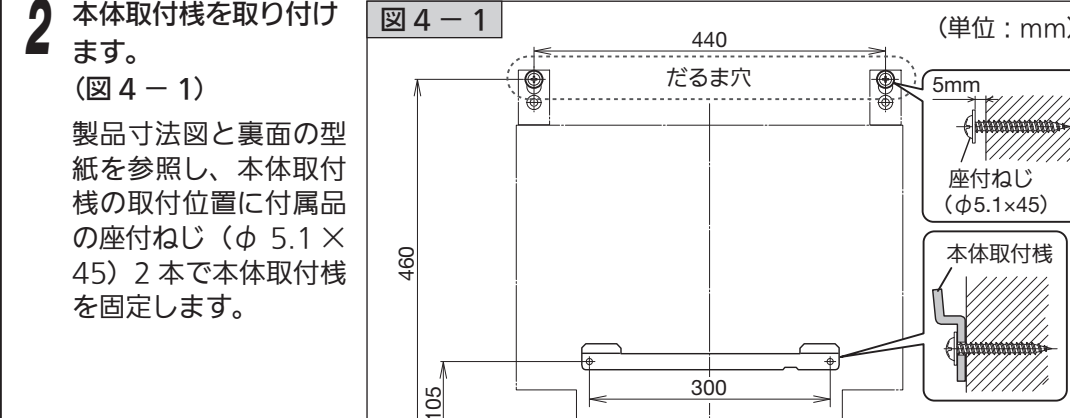
5. ダクトと給気・排気用部品の接続

1 だるま穴用座ねじをねじ込みます。（図 4-1）
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置（左右各 1ヶ所）に付属品の座ねじ（φ 5.1 × 45）を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。

2 本体取付ねじを取り付けます。（図 4-1）
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付ねじの取付位置に付属品の座ねじ（φ 5.1 × 45）2 本で本体取付ねじを固定します。

図 4-1

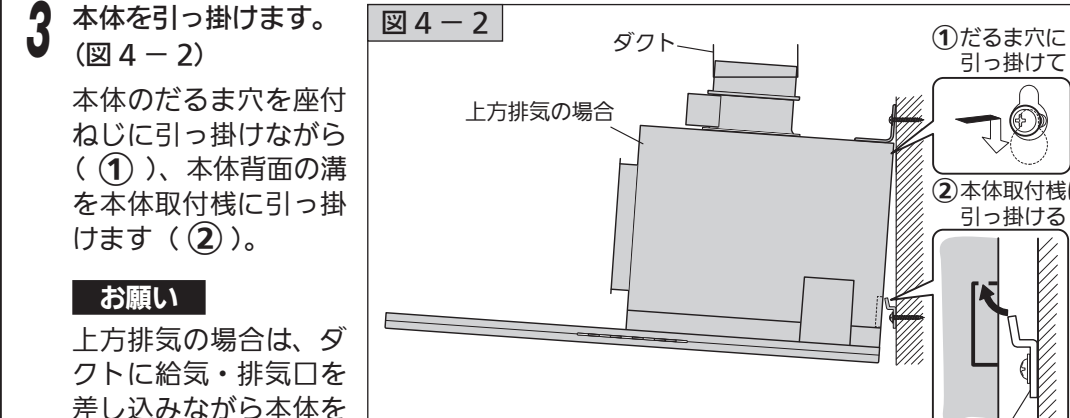
（単位：mm）



3 本体を引っ掛けます。（図 4-2）
本体のだるま穴を座ねじに引っ掛けながら（①）、本体背面の溝を本体取付ねじに引っ掛けず（②）、本体を取付けてください。

図 4-2

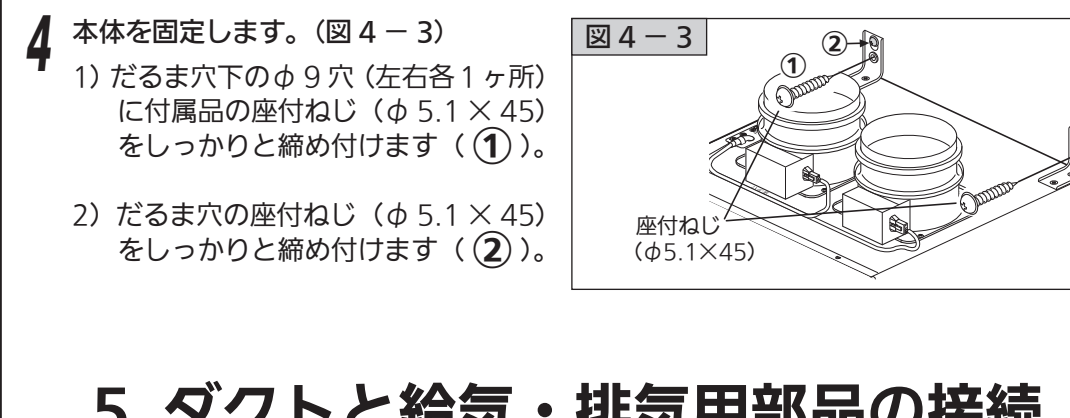
ダクト



4 本体を固定します。（図 4-3）
1) だるま穴のφ 9 穴（左右各 1ヶ所）に付属品の座ねじ（φ 5.1 × 45）をしっかりと締め付けます（①）。
2) だるま穴の座ねじ（φ 5.1 × 45）をしっかりと締め付けます（②）。

図 4-3

座ねじ（φ 5.1 × 45）



6. 電気配線

警告

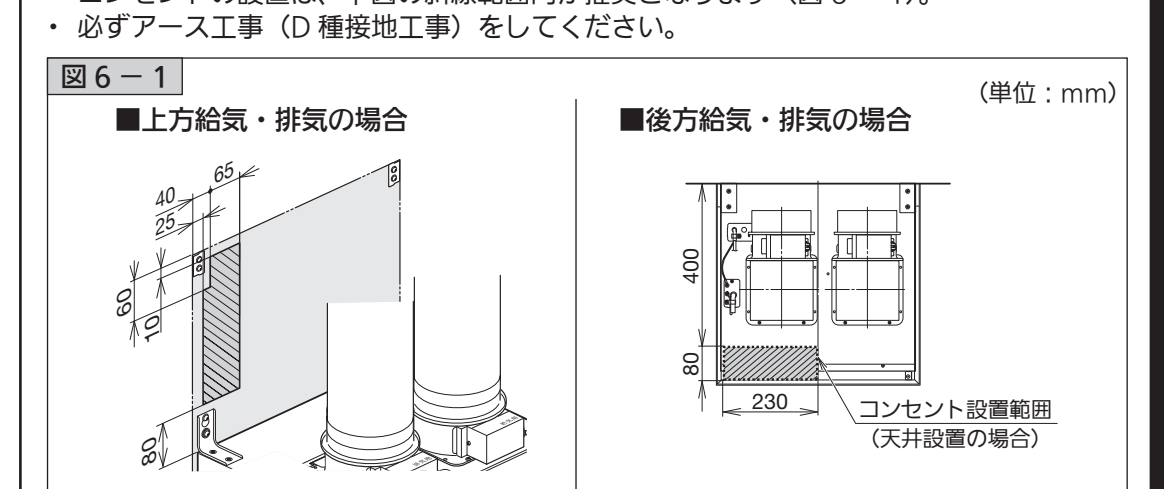
- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

注意

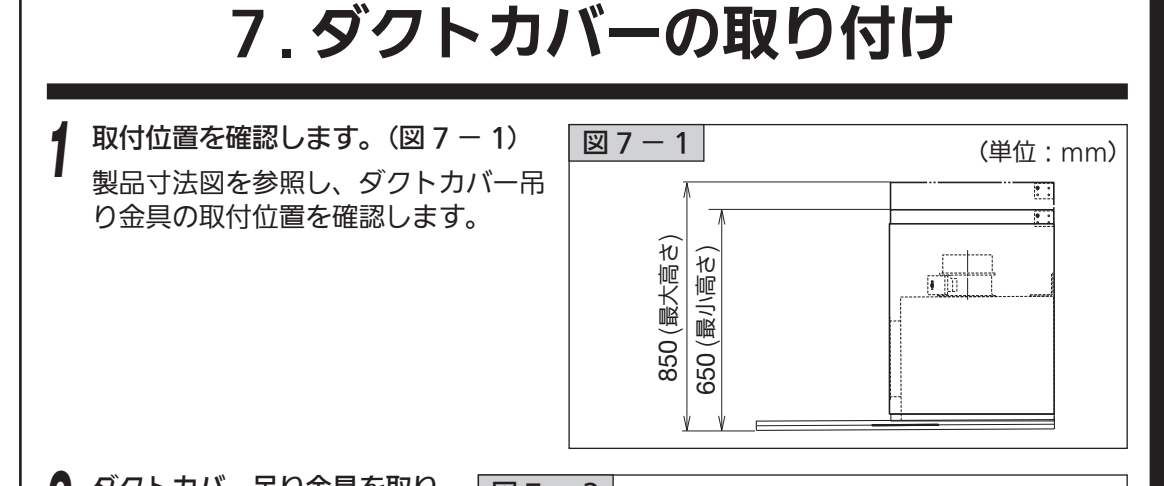
- 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 電源は専用のコンセント（2 極接地極付差込接続器 15 A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- ・「9. 試験運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、関連法規に従って設置してください。コンセントの設置は、下図の斜線範囲内が推奨となります（図 6-1）。
- ・必ずアース工事（D 極接地工事）をしてください。

図 6-1

■ 上方給気・排気の場合



■ 後方給気・排気の場合

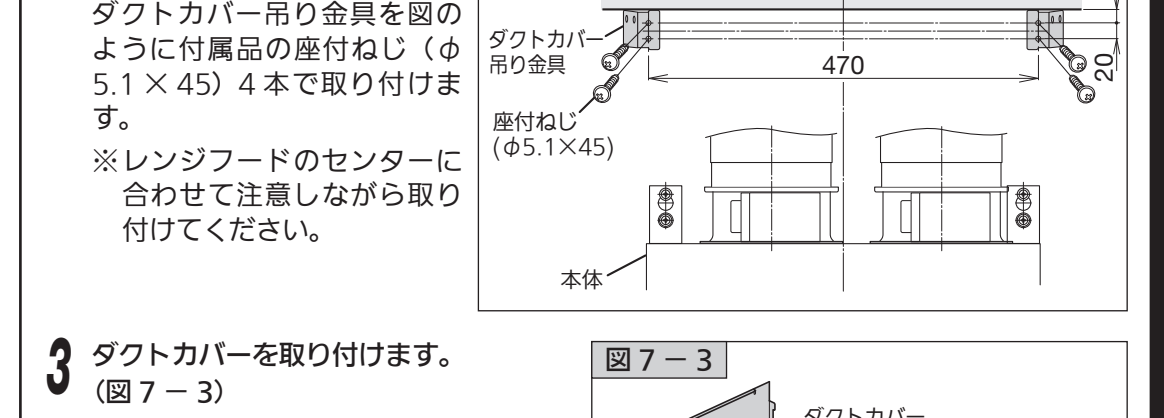


7. ダクトカバーの取り付け

1 取付位置を確認します。（図 7-1）
製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊り金具の取付位置を確認します。

図 7-1

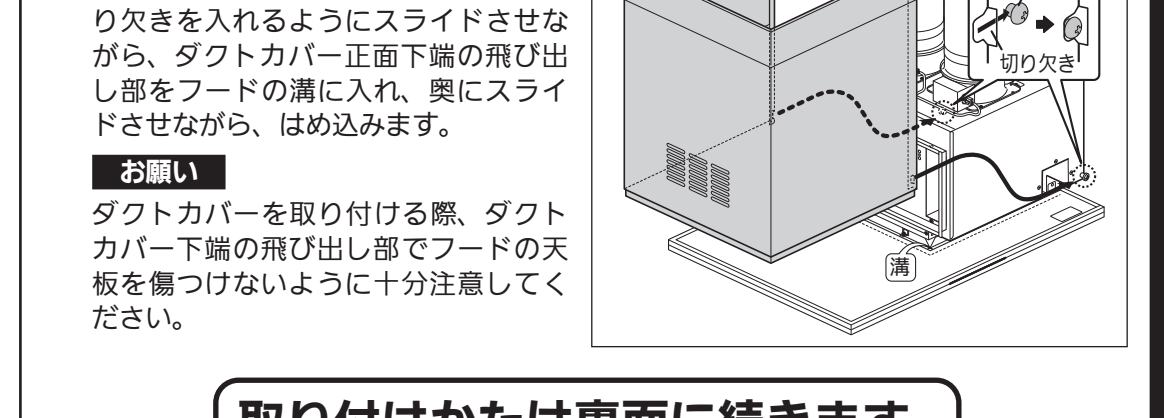
（単位：mm）



2 ダクトカバー吊り金具を取り付けます。（図 7-2）
ダクトカバー吊り金具を図のように付属品の取付ねじ（φ 5.1 × 45）4 本で取り付けます。
※レンジフードのセンターに合わせて注意しながら取り付けてください。

図 7-2

（単位：mm）



3 ダクトカバーを取り付けます。（図 7-3）
ダクトカバーを壁際まで持っていく、本体の引掛けねじにダクトカバーの切り欠きを入れるようにスライドさせながら、ダクトカバー正面下端の飛び出し部をフードの溝に入れ、奥にスライドさせながら、はめ込みます。

図 7-3

（単位：mm）



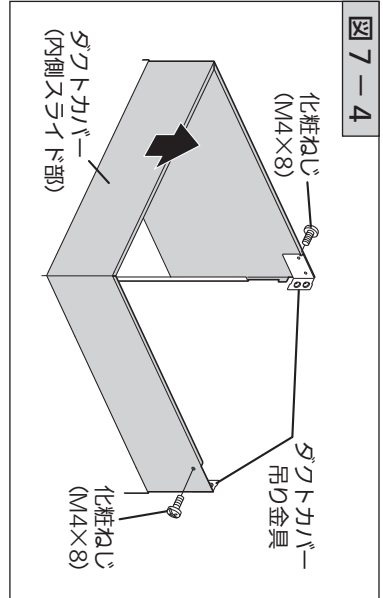
取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた（つづき）

4 ダクトカバーを固定します。

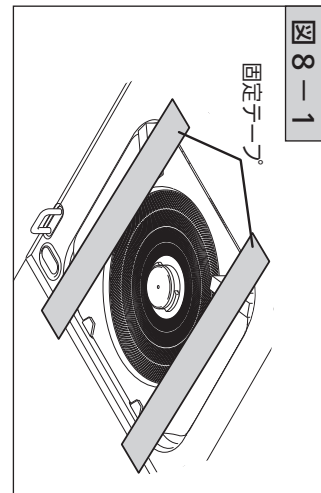
ダクトカバーの内側スライト部を天井骨で引き上げ、付属品の化粧ねじ（M4×8）2本でダクトカバー吊り金具に固定します。（図7-4c）



8. 整流板の取り付け

1 固定テープを貼ります。

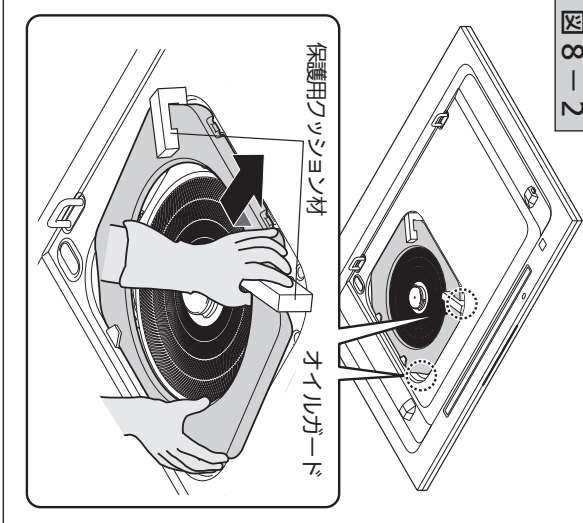
（図8-1）



2 保護用クッション材を貼ります。

（図8-2）

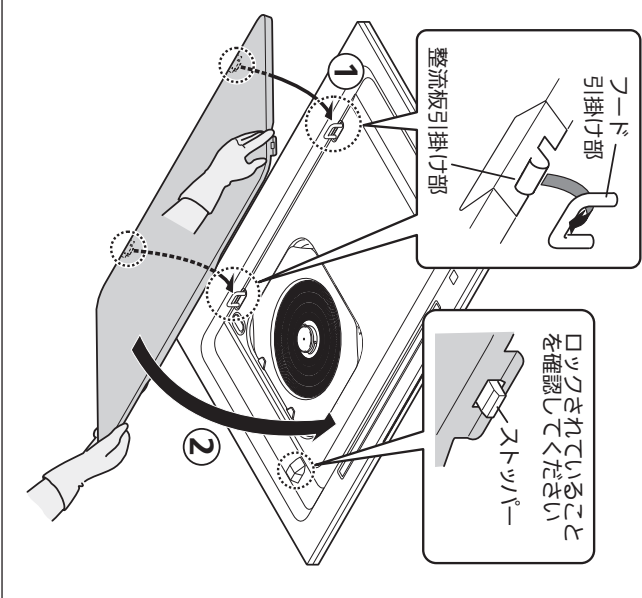
オイルガードの手前側左右のすき間に紙をかけ、オイルガードを矢印方向に引いて本体からはずし、保護用のクッション材（2個）をはずします。
※保護用クッション材をはずした後は、オイルガードをもとどおりに取り付けてください。



3 整流板を取り付けます。

（図8-3）

1) 奥側左右の整流板引掛け部をフット引掛け部に適度につっ掛けます（①）。
2) 整流板を手手で支えながら手前側を上を持ち上げ、左右のストッパーを押しながらロックします（②）。
取り付け後は整流板を上下に動かし、はずれないことを確認してください。

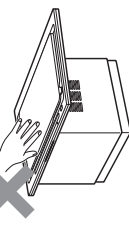


・整流板の固定は、確實に行ってください。ロックが不十分だと落下の原因になります。

9. 試運転

△注意

●運転中は、指や物を絶対に入れないこと
指がするおそれがあります



■分電盤のブレーカーを「I」に、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
■スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■必ず整流板の固定を確認してください。
■整流板の正しく取り付けられているか、運転停止確認により運転が正常であること、スイッチの取り付けがおかしくないこと、取り付け不完全な状態で運転すると、スイッチの付忘れおそれおかしな動作により、付忘れをおそれします。
■整流板とスイッチの取り付けについては取扱説明書をご覧ください。
■運転時、各通風の排気口正しくおこなっていることを確認してください。
■異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
■取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
■製品保護のため、はずした保護用のクッション材は固定テープをもとの状態に取り付けてください。
■風量おまかせ運転（風量自動切替）機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法でも必ず運転設定をおこなってください。

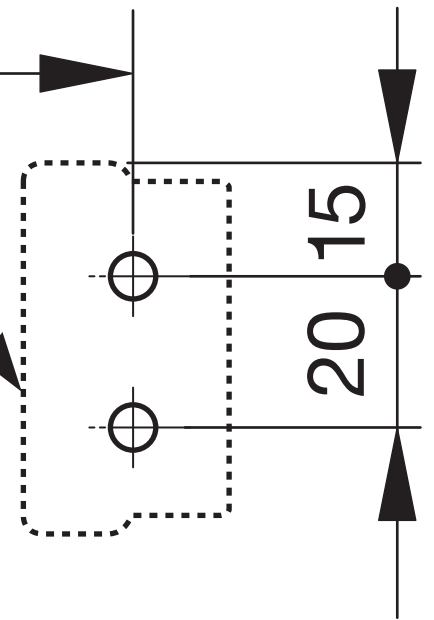
10. お客様への説明

■取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■取扱説明書と共に、この取付説明書をお客様にお渡しください。

【製造元】 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
TEL 042(768)3754（営業部）

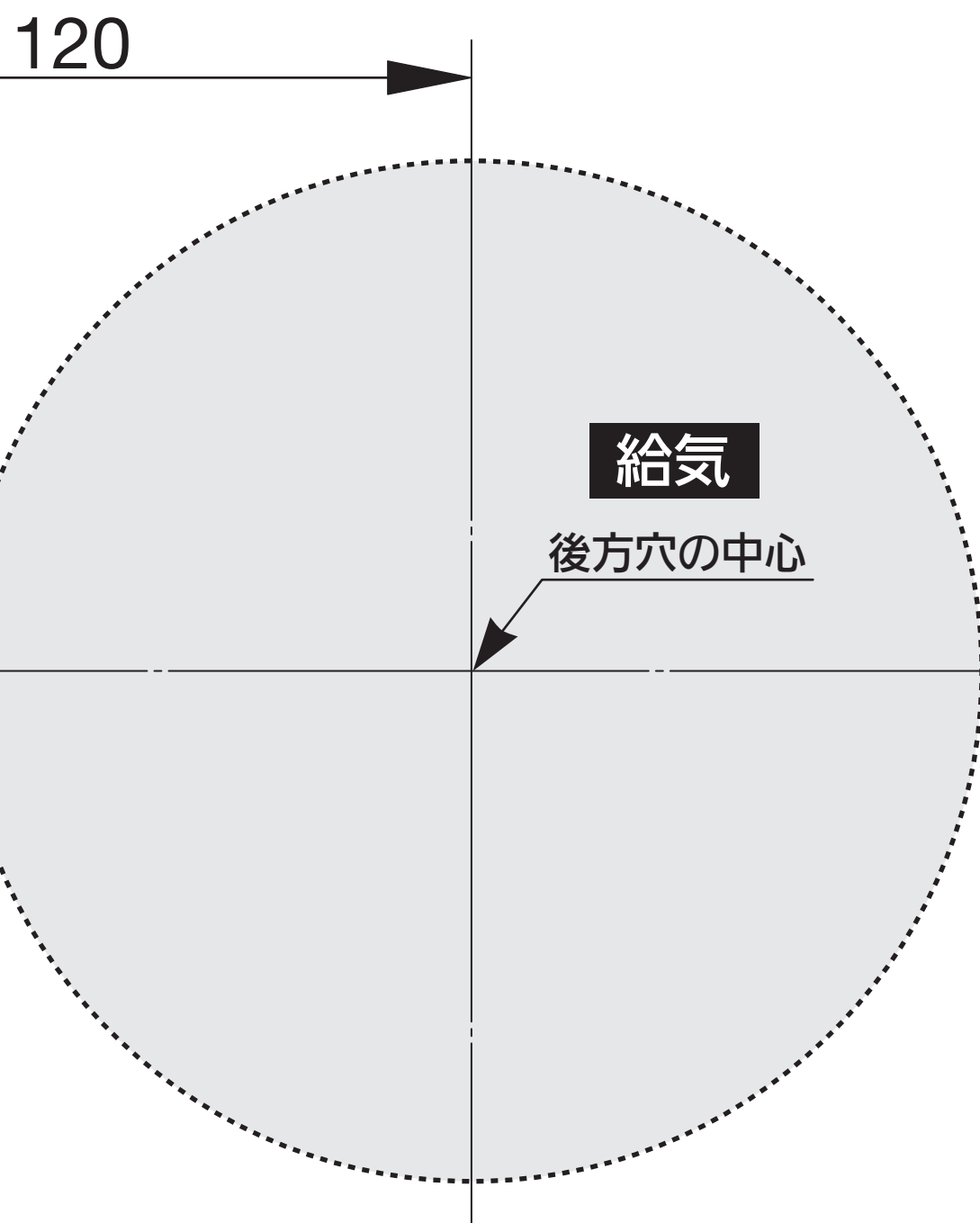
原寸大型紙（寸法単位はmm）

お願い
この型紙は湿気の影響で2～3mm誤差が生ずることがあります。
寸法をお確かめの上ご使用ください。



本体取り付け用
ねじ位置（φ5.1×45）
本体取り付け用
ねじ位置（φ5.1×45）

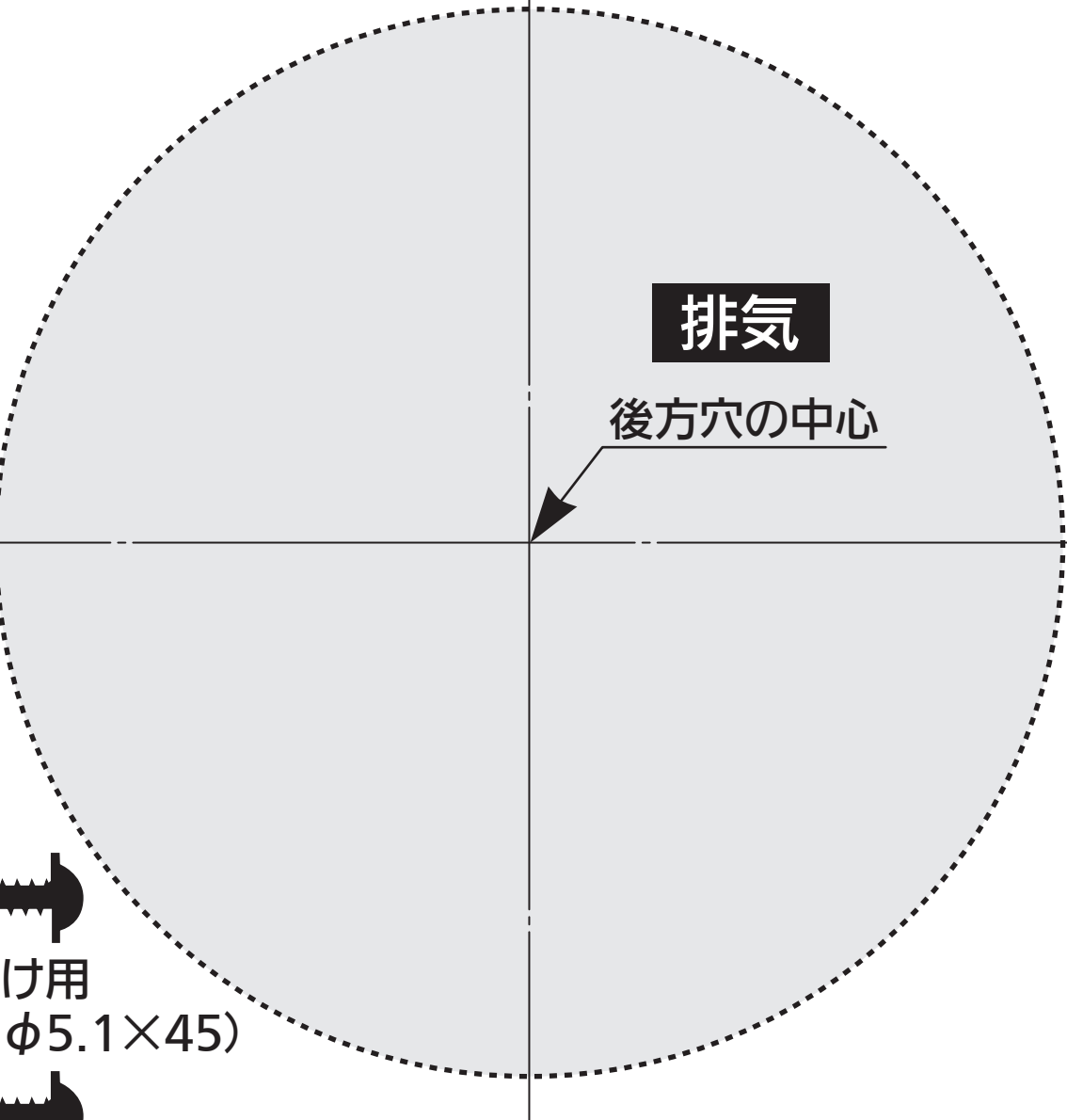
給気
後方穴の中心



120

440

排気
後方穴の中心



90

本体取り付け用
ねじ位置（φ5.1×45）
本体取り付け用
ねじ位置（φ5.1×45）

30

製品の中心

本体取付棧（付属品）

本体取付棧用
ねじ位置（φ5.1×45）

本体取付棧用
ねじ位置（φ5.1×45）

105

300

694

515

800以上
上端から
調理機器